

北朝鮮の新型コロナウイルス感染症の現状と展望

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘

要 旨

2022年5月12日に開催された朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者が出たことを初めて認めた。「発熱者」は5月15日をピークに一貫して下がり続けている。中朝貿易は、2020年1月30日の特別防疫体制への移行によって中朝国境が閉鎖されたことにより、2020年は前年に比べて大きく減少した。2022年1月の鉄道輸送の再開により、1月～4月の中国の北朝鮮への輸出が前年比で大幅に増加したが、4月下旬の鉄道輸送の停止にともない、5月には大幅に減少した。中国共産党第20回大会の終了とともに、中国がウィズコロナに本格的に移行するとすれば、北朝鮮も国境の通行再開など、これまでとは異なった対応を取ることが予想される。

キーワード：新型コロナウイルス感染症、国境封鎖、防疫

JEL Classification Codes: I18, O53, P20

はじめに

本誌154号16～19頁では、拙稿「北朝鮮の新型コロナウイルス感染症への対応」で朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮とする）の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への初期の対応について検討した。ここで筆者は「報道を見る限り、2020年6月上旬現状では封じ込めに成功したとみられる。しかし、ウイルスの世界的流行が続く限り、防疫のための「鎖国」状態をかなり長期に続けざるを得ない状況になる可能性がある」と指摘した。

2022年1月17日に中国外交部は記者会見で、北朝鮮との協議を経て、遼寧省丹東と北朝鮮北西部の新義州を結ぶ貨物列車の運行が再開したと発表した¹。その後、中国外交部は同年4月29日、記者会見で中国側での COVID-19 の感染拡大の影響で一時停止することになったと発表した²。その後、北朝鮮での COVID-19 感染が拡大したことから、中国側は貨物列車の運行再開に慎重になっているとの報道がある³。鉄道輸送による COVID-19 の伝播は因果関係がはっきりしないが、中国側、特に地方政府がそれだけ神

経質になっていることの証左であり、中朝国境交通の通行再開は、北朝鮮だけで決められる問題ではないことを示している。

本稿では、2022年5月に入ってから北朝鮮における COVID-19 の感染拡大の現状と、それが北朝鮮経済に与える影響、今後のあり得る展望を示すことを目的とする。

1. 朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議と感染拡大の「認知」

2022年5月12日付『労働新聞』によれば、同日朝鮮労働党中央委員会第8期第8回政治局会議が招集され、金正恩総書記の司会の下、6月上旬に党中央委員会第8期第5回総会を招集すること、「防疫危機状況に対処するための問題」が討議された。この場で、政治局は「去る5月8日、首都のある団体の複数の有熱者から採集した検体に対する厳格な遺伝子配列分析の結果を審議し、最近、世界的に急速に拡散しているオミクロン変異株「BA.2」と一致すると結論した」と COVID-19 患者が出たことを初めて認めた。そして、国

家防疫活動を最大非常防疫体系へと移行することに関する朝鮮労働党中央委員会政治局決定書が採択された。

具体的には「全国のすべての市、郡で、自分の地域を徹底的に封鎖し、事業単位、生産単位、生活単位別に隔離した状態で事業と生産活動を組織して、悪性ウイルスの拡散空間を隙間なく完璧に遮断する」ことが決定された。金正恩総書記は「今われわれにとって悪性ウイルスより更に危険な敵は、非科学的な恐怖と信念不足、意志薄弱である」とし、断固たる措置をとることにより、社会の混乱を抑えるようにすることを強調した。この会議は未明に行われ、同日付の新聞で報道されるなど、朝鮮労働党が危機に対して緊張感を持って臨んでいるを感じさせるものであった。

翌13日付『労働新聞』は、金正恩総書記が12日に国家非常防疫司令部を訪問したことを報道しており、ここで初めて「有熱者」という表現で COVID-19 に罹患した可能性のある人々の数が報道された。北朝鮮では PCR 検査を今のところ積極的には行っておらず、4月末からの死者6名のうち、確定診断が出たのは1名としている。

同月14日付『労働新聞』によれば、朝鮮

¹ 『日本経済新聞』2022年1月18日付。

² 『日本経済新聞』2022年5月2日付。

³ 「北朝鮮、物資不足緩和へ中国に列車再開を要望」『日本経済新聞』オンライン版2022年7月19日
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGM29AFN0Z20C22A6000000/>（最終アクセス2022年7月20日）

労働党中央委員会政治局は最大非常防疫体系の稼働実態を点検し、政治実務的対策を補強するために、同日、党中央委員会本部庁舎で協議会を招集した。この協議会は、同月15日、21日、29日にもそれぞれ開かれており⁴、COVID-19の拡散状況を中心に国政の重要議題について状況の把握と意見交換が行われた。

2. 北朝鮮における新型コロナウイルス感染症の現状

感染状況は朝鮮労働党機関紙『労働新聞』や政府機関紙『民主朝鮮』に「有熱者」「全快者」「死者」「治療を受けている人」の数が指標としてそれぞれ報告されている。

図1を見ると「発熱者」は5月15日をピークに一貫して下がり続けている。発表を開始したのが5月12日であったことを勘案すると、国民向けに公表したのは発熱者のピークアウトの可能性が高くなってきた後、ということになるだろう。韓国の感染者数が2022年3月17日に62万人⁵を超えてからは減少したのと同じようなカーブをこの頃に描いていたのではないかと想像する⁶。

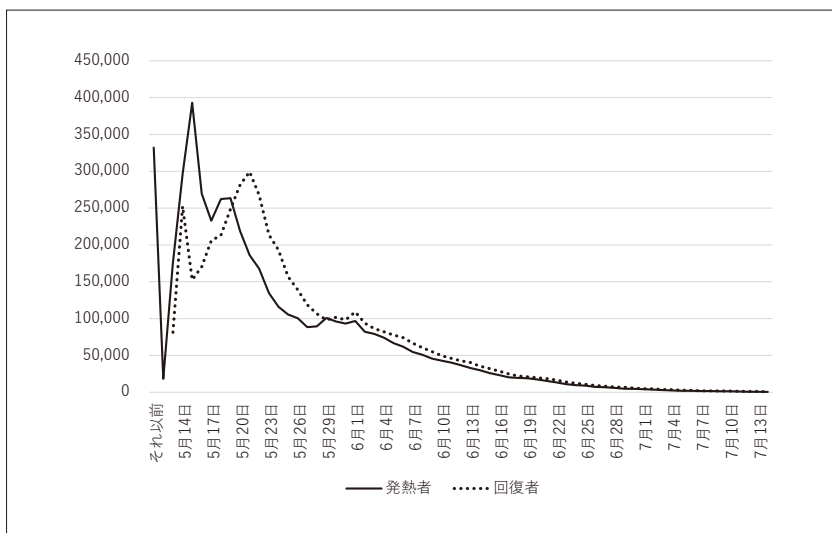
北朝鮮では、今年3月末まで『労働新聞』で韓国のCOVID-19感染状況を毎日つぶさに報道していたが、4月に入り報道の頻度が落ちた。北朝鮮の人々は韓国で1日60万人以上の人々が確認者となった状況を国内報道を通じて知っているの、それほどのパニックには陥っていないものと思われる。

図2のように、6月に入ると発熱者よりも回復者の方が多い状況が続き、7月15日現在、ほぼ第1波は収束したように見える。今後、Ba.4やBa.5の変異種が中国経由で流入することも予想されるが、国民はCOVID-19が基本的に克服可能な病気

であることを認識しており、死者数も公式には74名⁷のため、大きな社会的不安にはならない可能性が高い。ただし、5月12日から1週間ほどの報道には、やみくもに薬を服用

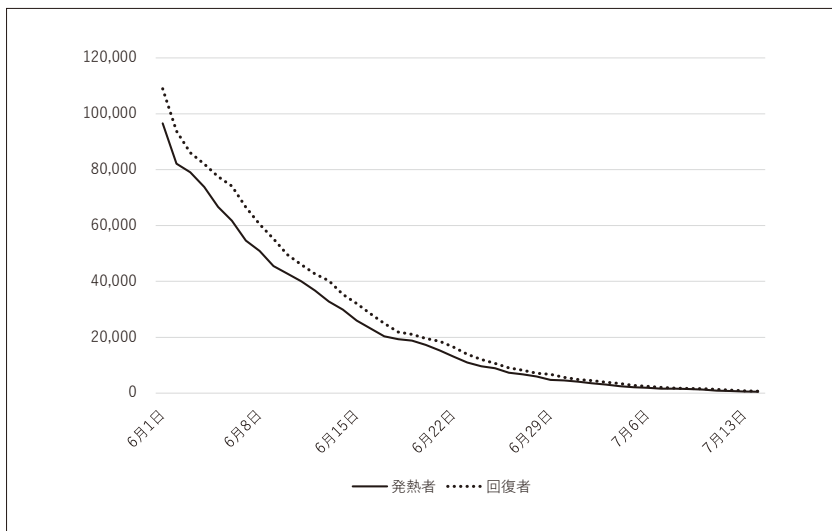
することを諫める記事もあり、経済的に余裕のある層を中心に一定の混乱があったことを示唆している⁸。

図1 北朝鮮の発熱者と回復者の推移(全期間)(単位:人)



出所: 『労働新聞』報道の数値より筆者作成

図2 北朝鮮の発熱者と回復者の推移(6月以降)(単位:人)



出所: 『労働新聞』報道の数値より筆者作成

⁴ 2022年5月16日、21日、29日付『労働新聞』に協議会の様子が報道されている。

⁵ 金明中「韓国で1日あたりの新規感染者数が60万人を超えた理由」『Newsweek 日本語版』2022年3月29日 https://www.newsweekjapan.jp/kim_m/2022/03/60.php (最終アクセス2022年7月5日)

⁶ ただし韓国における感染者数の減少は、検査を受けて感染が確定した人に対する経済的インセンティブが減少したことも一因であるとされており、社会的な要因も考慮する必要があるだろう。

⁷ 死者数が発表されたのは5月12日分からであり、5月11日以前の「それ以前」の数値には死者数は含まれていない。5月11日以前には死者数を正確に把握できていなかった可能性もある。7月15日現在の累計死者数は74人となっているが、実際にはこれよりも死者が多かった可能性は否定できない。

⁸ また、医薬品も不足しているようで、5月17日付の韓国『聯合ニュース』は、北朝鮮の高麗航空の飛行機3機が瀋陽空港に到着し、医薬品を積んで北朝鮮に戻ったことを伝えている。この程度の輸送量であれば、アセトアミノフェンやイブプロフェンといった解熱剤を数億錠持ち帰ることができたはずであり、とりえず平壤市内を中心に国内で基本的な医薬品を供給するめどは立ったものと考えられる。

3. 中朝貿易の現状

中朝貿易は、2020年1月30日の特別防疫体制への移行によって中朝国境が閉鎖されたことにより、図3のように2020年は前年に比べて大きく減少した。

中国の北朝鮮からの輸入は、元々金額的にそれほど大きくはないため、減少は少なく見えるが、20年にはどの月も前年同月の実績を下回っている。中国の北朝鮮への輸出は、20年の5月～7月に若干回復したものの、大幅減となっている。

2021年と22年を比較すると、22年1月の鉄道輸送の再開により、1月～4月の中国の北朝鮮への輸出が前年比で大幅に増加している。しかし、4月下旬の鉄道輸送の停止にともない、5月には中国の北朝鮮への輸出が大幅に減少しているのが見て取れる。

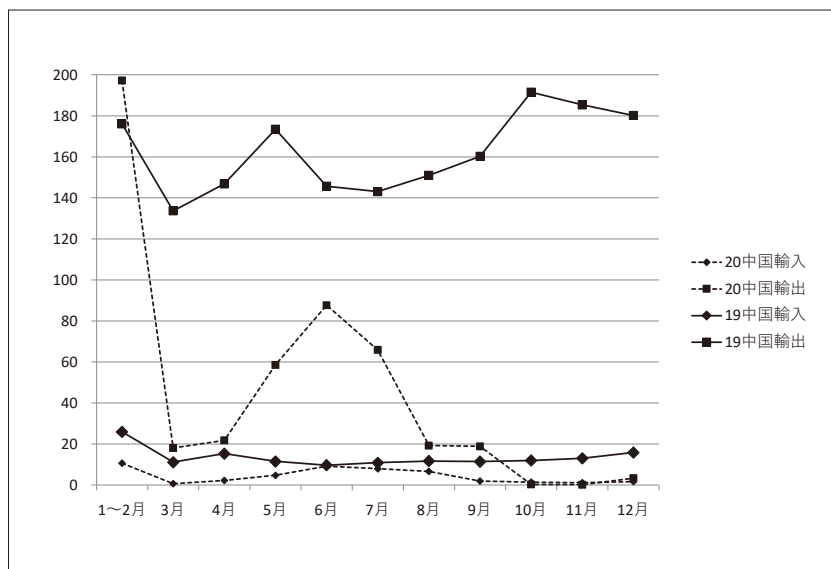
品目別の統計をみると、2021年の中国の対北朝鮮輸入はフェロシリコン、電力、アナログ電気式ウォッチムーブメント、生糸、馬鈴薯の粉（でんぷん）の順で、2022年1月～5月のそれは、電力、フェロシリコン、生糸、タングステン鉱およびその精鉱、モリブデン鉱およびその精鉱となっており、鉱物の輸出が増加していることが見て取れる。

中国の対北朝鮮輸出品目をみると、2021年にはタバコが1位となっており、その次にリン酸肥料原料、タイヤ、医薬品、尿素（肥料）となっている。22年には、大豆油、ポリエチレンシート、一般医薬品、砂糖、小麦粉がトップ5品目となっており、食料品や包装材料など、国民生活に関係の深いものが多く含まれている。これらの輸入を増やし、軽工業工場をフル稼働させ、生活必需品を生産していくことが、ウイズコロナで需要が増加する北朝鮮においてはインフレの防止と国民の支持を確保するために重要になるだろう。

今後北朝鮮は、中国のウイズコロナへの移行にあわせて中国との経済交流を回復させるだろう。まずはトラックによる物流の復活、その次に人的交流の回復を目指すの

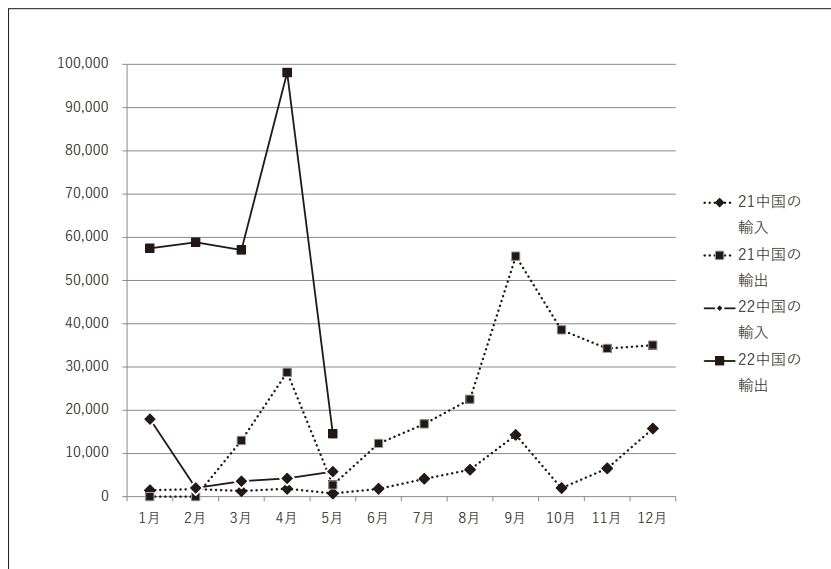
ではないか。同時に、ハサン～羅津港鉄道輸送の回復や豆満江を渡る橋の建設などを通じて、ロシアとの経済交流を拡大させようとするのではないかと考えられる。

図3 2019年と20年の中朝貿易額(単位:100万米ドル)



出所: 中国海関総署

図4 2021年と22年の中朝貿易額(単位:1000米ドル)



出所: 中国海関総署

表1 中国の対北朝鮮輸入品目トップ15(2021年)

順位	HSコード	品名	数量	単位	数量	単位	金額(米ドル)
1	72022100	フェロシリコン(けい素の含有量が全重量の55%を超える)	37093289	キ口	0	—	26,816,053
2	27160000	電力	412987046	kWh	0	—	16,941,553
3	91081100	アナログ電気式ウォッチムーブメント	35873000	個	36826	キ口	3,600,568
4	50020019	生糸	265590	キ口	0	—	2,719,985
5	11051000	ばれいしょの粉及びミール	4195875	キ口	0	—	2,517,525
6	31043000	硫酸カリウム	5080000	キ口	0	—	1,778,000
7	28492000	ケイ素炭化物	2320225	キ口	0	—	1,082,382
8	50030099	絹のくず	237345	キ口	0	—	1,028,292
9	26110000	タングステン鉱およびその精鉱	100000	キ口	0	—	604,133
10	92059020	アコージェイオンその他これに類する楽器	1372	個	11087	キ口	441,324
11	67042000	人髪製のかつら、付けひげ、付け眉毛、付けまつげ、かもしその他これらに類する物品	1900	キ口	0	—	355,602
12	22030000	ビール	300004	リットル	303608	キ口	66,834
13	22089020	焼酎	6019	リットル	5594	キ口	48,456
14	69091100	磁器製の理化学用その他の技術的用途に供する物品	10	キ口	0	—	44,961
15	98050000	個人のeコマース商品	56	キ口	292	個	23,784

出所: 中国海関総署

表2 中国の対北朝鮮輸入品目トップ20(2022年1月~5月)

順位	HSコード	商品名	第1数量	第1単位	第2数量	第2単位	米ドル
1	27160000	電力	196426595	kWh	0	—	8,065,405
2	72022100	フェロシリコン(けい素の含有量が全重量の55%を超える)	5855146	キ口	0	—	4,957,357
3	50020019	生糸	476140	キ口	0	—	4,931,831
4	26110000	タングステン鉱およびその精鉱	429800	キ口	0	—	4,361,918
5	26139000	モリブデン鉱およびその精鉱	294753	キ口	0	—	2,544,435
6	91081100	アナログ電気式ウォッチムーブメント	12290000	個	13479	キ口	1,788,561
7	50030099	絹のくず	372615	キ口	0	—	1,638,886
8	28492000	ケイ素炭化物	2978751	キ口	0	—	1,397,217
9	70052900	フロード板ガラス及び磨き板ガラス(色つきでないもの)	4851000	キ口	646794	平方米	1,285,515
10	72061000	鉄又は非合金鋼のインゴット(炭素の含有量が全重量の0.6%未満のもの)	1868700	キ口	0	—	790,662
11	86072100	鉄道および軌道用エアブレーキ及びその部分品	75125	キ口	0	—	504,000
12	67042000	人髪製のかつら、付けひげ、付け眉毛、付けまつげ、かもしその他これらに類する物品	1656	キ口	0	—	394,128
13	31043000	硫酸カリウム	945000	キ口	0	—	330,750
14	92059020	アコージェイオンその他これに類する楽器	2951	個	22272	キ口	162,620
15	31059090	その他肥料(肥料成分のうち二以上を含有する)	15000	キ口	0	—	69,000
16	95066210	サッカーボール、バスケットボール、バレーボール	90300	個	12270	キ口	65,874
17	38021090	活性炭	300000	キ口	0	—	54,000
18	33012999	精油(かんきつ類の果実のものを除く。)	3000	キ口	0	—	49,877
19	95030021	動物の形をしたおもちゃ	193500	個	14970	キ口	48,375
20	67021000	プラスチック製の人造の花	4700	キ口	0	—	32,938

出所: 中国海関総署

表3 中国の対北朝鮮輸出品目トップ20(2021年)

順位	HSコード	品名	数量	単位	数量	単位	金額(米ドル)
1	24031900	喫煙用たばこ	2357510	キロ	0	—	16,446,187
2	31053000	オルトリン酸水素二アンモニウム	25884580	キロ	0	—	13,025,333
3	40112000	バスまたはトラック用タイヤ	6592305	キロ	101355	本	12,424,437
4	30049090	一般医薬品	1861086	キロ	0	—	11,512,070
5	31021000	尿素	3200000	キロ	0	—	11,167,000
6	40012100	生ゴム(スモークドシート)	4811229	キロ	0	—	9,816,122
7	28362000	炭酸二ナトリウム	27638250	キロ	0	—	8,123,998
8	39201090	ポリプロピレンシート	4802726	キロ	0	—	6,087,988
9	12019010	黄白色系の大豆(種用ではない)	6490808	キロ	0	—	5,903,798
10	15079000	大豆油	4560202	キロ	0	—	5,803,682
11	39011000	比重が0.94未満のポリエチレン	3867100	キロ	0	—	5,673,778
12	55032000	ポリエステル短繊維	6197400	キロ	0	—	5,547,052
13	17019910	砂糖	11433900	キロ	0	—	4,686,756
14	24012090	タバコ(骨を一部または全部のぞいたもの)	1058135	キロ	0	—	4,475,550
15	34012000	石けん	4568000	キロ	0	—	4,435,401
16	4021000	粉乳(脂肪分1.5%以下)	1510470	キロ	0	—	4,396,544
17	15119090	パーム油	5521294	キロ	0	—	4,155,828
18	27132000	石油アスファルト	7326224	キロ	0	—	3,910,285
19	39021000	ポリプロピレン	2469780	キロ	0	—	3,455,567
20	55021010	アセテートのトウ(タバコのフィラタ)	861586	キロ	0	—	3,410,974

出所:中国海関総署

表4 中国の対北朝鮮輸出品目トップ25(2022年1月~5月)

順位	HSコード	商品名	第1数量	第1単位	第2数量	第2単位	米ドル
1	15079000	大豆油	12352323	キロ	0	—	19,334,033
2	39201090	ポリエチレンシート	9019999	キロ	0	—	13,098,108
3	30049090	一般医薬品	5191766	キロ	0	—	9,064,104
4	17019910	砂糖	19965800	キロ	0	—	9,061,903
5	11010000	小麦粉及びメスリン粉	26369475	キロ	0	—	8,839,957
6	55032000	ポリエステル短繊維	6714920	キロ	0	—	7,275,117
7	40112000	バスまたはトラック用タイヤ	3294293	キロ	66537	本	6,805,339
8	29224220	グルタミン酸ナトリウム(味の素)	5323000	キロ	0	—	6,529,923
9	24031900	喫煙用たばこ	1119840	キロ	0	—	6,404,846
10	28362000	炭酸二ナトリウム	14944580	キロ	0	—	5,571,164
11	39181090	塩化ビニル製フローリング材	3217733	キロ	0	—	5,188,849
12	15119090	パーム油	5214760	キロ	0	—	4,950,133
13	39011000	比重が0.94未満のポリエチレン	2842900	キロ	0	—	4,694,358
14	38089319	除草剤、発芽抑制剤及び植物生長調整剤	954500	キロ	0	—	4,558,355
15	34025010	合成洗剤(消費者向けパック)	5903768	キロ	0	—	4,221,360
16	34012000	石けん	3633700	キロ	0	—	3,753,022
17	54076900	その他の織物(ポリエステル長繊維が85%以上)	3353297	メートル	61799	キロ	3,605,338
18	39202090	その他の織物(ポリエステル長繊維が85%以上)	1827939	キロ	0	—	3,565,408
19	12019011	濃伝子非組み換え黄白色大豆	4244006	キロ	0	—	3,469,882
20	24012090	タバコ(骨を一部または全部のぞいたもの)	763320	キロ	0	—	3,443,184
21	34029000	その他の界面活性剤(洗剤)	6716400	キロ	0	—	3,368,460
22	40012100	生ゴム(スモークドシート)	1587224	キロ	0	—	3,208,872
23	39012000	比重が0.94以上のポリエチレンの一次品	2290950	キロ	0	—	2,783,495
24	23040090	大豆油かす	5096613	キロ	0	—	2,775,319
25	31021000	尿素	5000000	キロ	0	—	2,756,688

出所:中国海関総署

4. 今後の展望

2021年後半より金正恩総書記が两江道三池淵市を訪れるなど地方出張が復活しており、COVID-19に対する警戒感は一貫しては以前より緩んできていると思われるが、厳しい防疫体制には変化はなく、ウィズコロナへの移行は当分先であると感じられた。しかし、前述したように、韓国を含めた世界のCOVID-19感染状況の報道も4月からは量的にかなり減少し、隣国である中国でも、上海などで厳格なロックダウンを行いながらも、昨年末頃より、ゼロコロナ政策を解除する方法とそれをもたらす社会的影響についての試論が発表されるなど、ウィズコロナ、アフターコロナに向けた検討が行われ始めている。

今回、朝鮮労働党中央委員会政治局が新型コロナウイルス感染症の国内感染者を認めたことは、北朝鮮がコロナ禍に見舞われ、大混乱に陥ったことを認めたというよりは、世界的なウィズコロナ、アフターコロナの趨勢に合わせて、出口戦略として、国民に新型コロナウイルス感染症がそれほど恐ろしくないことを知らせるための宣伝の一貫であると判断できる。

したがって、国民を管理する次元で積極的にCOVID-19を利用することがあったとしても、受け身になる可能性は今のところ低い。中国は2022年6月28日から中国国外からの渡航者を対象とした隔離期間の短縮（14日間の隔離施設における集中隔离+7日または14日間の自宅健康観察から、7日間の隔離施設における集中隔离+3日間の自宅健康観察への変更）を行っており、7月1日からは日本におけるMビザ（短期商用）取得の際に必要であった、中国の省政府クラスの商務庁または人民政府外事弁公室が発行したバーコードつき招聘状が不要になるなど、ゼロコロナ政策継続の報道の裏で、ゆっぴりかつ確実にウィズコロナへの準備を進めている。この秋に予定されている中国共産党第20回大会までは、社会の安定を重視することから現行の厳しいコロナ対策が継続するであろう。しかし、党大会後には、オミクロン株の変異種（Ba.4、Ba.5）などの感染状況や重症化の度合いなどを勘案しながらウィズコロナへの対応をゆっぴりと進めてい

くことになるであろう。

北朝鮮の今般のCOVID-19感染拡大の認知は、中国の共産党大会後と思われる外国との交流再開に合わせて、国境封鎖を解き、物流を正常化するなどして、経済交流をコロナ前の状況に戻していくことを考えている可能性が高いのではないかと推測している。

中国がウィズコロナに移行するということは、中朝間のトラックによる物流やビジネスパーソン的人的交流が再開できるようになるということでもある。今年後半にこのような状況に移行するとすれば、不足している生活必需品の原材料や完成品が中国からより多く輸入されるようになるはずである。このような状況が北朝鮮の5月からのコロナ対応にも反映されていると見てよいだろう。

2022年6月11日付『労働新聞』によれば、同月8日～10日に開催された朝鮮労働党中央委員会第8期第5回総会は、拡大会議という形で「党中央委員会各部署の活動家と省、中央機関、道級指導的機関と市・郡、重要工場、企業の責任活動家が傍聴」するなかで行われた。近年、中央委員会総会を拡大会議で行ったことはなく、中央党と内閣の経済関連幹部だけでなく、道や市・郡といった地方の幹部や企業の幹部までを網羅している。同総会では、農業と軽工業を2022年の重要な課題とした。

同月13日付『労働新聞』に掲載された「党中央委員会総会拡大会議は消費財生産を今年の経済的課題の中の急務のひとつと設定した」という記事では、「消費物生産において、地方工業が自らの役割を果たすことが重要である。」「大規模の中央工業と共に中小規模の地方工業も同時に発展させて、消費財生産を増やすというのは、わが党が終始一貫堅持している政策である。」とし、地方工業の重要性を説いている。しかし、それが上手くいないことを同記事では「自らの地域の自然的・地理的利点を正しく利用することは考えず、条件ばかり並べ立てて他人の顔色ばかりうかがうような活動家がいる所では、いつまでたっても人民生活が向上せず、わが党の人民愛の政治が立派に具現されない」と批判している。

2022年6月19日付『民主朝鮮』が「今年の経済的課題の急務は、農業と消費財生産である」という記事を載せているこ

とからも、同総会のポイントは人事とともに、国民が実生活の中で感じられる「進展」をどのようにもたらすかということにあり、実際にそれを担当する党と政府、企業の関係者が集められたということであろう。

あくまで筆者の推測ではあるが、北朝鮮の指導部は対外経済関係が年末から来年にかけて好転するという見通しを立てつつ、化学肥料や農薬、農業用ビニールの供給が来年には復活の兆しを見せるため、独力でやらざるを得ない今年に関しては特に努力をするように促したとも言えよう。また、ロシアのウクライナへの侵攻にともなう西側諸国や日本の経済制裁は、中国やインド、ブラジル、イラン、サウジアラビア、トルコなどの国々の西側諸国や日本への信頼を失わせ、独自の経済圏構築の必要性を感じさせている。北朝鮮にとって、このような経済圏が誕生することは、願ったり叶ったりで、北朝鮮の指導部は、中口を中心とした国々との対外経済関係が拡大する可能性を感じており、今後の北朝鮮の対外経済関係は徐々に回復していく方向の楽観的な予測をしているのではないかと考える。

おわりに

2022年5月に入ってから北朝鮮におけるCOVID-19の感染拡大は、当初は相当数の「発熱者」が発表されたことで、北朝鮮が極めて困難な状況に陥ることを予感させたが、その後の発表をみると、事態はコントロールできるとのメッセージを感じさせるものであった。他方、中朝貿易の現状を見ると、2019年以前の貿易量には回復しておらず、国民生活は依然として困難な状況にあることを示唆している。6月の朝鮮労働党中央委員会第8期第5回総会で、農業と軽工業の振興を今年の課題としたことは、このような状況を認めたものとも見ることができ、ウィズコロナ、ポストコロナへの移行により、需要が増加することを見越した準備と見ることもできる。

中国共産党第20回大会の終了とともに、中国がウィズコロナに本格的に移行するとすれば、北朝鮮も国境の通行再開など、これまでとは異なった対応を取ることが予想される。